

在宅でも働ける!

「在宅実習プログラム」について紹介します。

特別支援学校に在籍する肢体不自由及び病弱生徒の中には、一般就労を望んでいますが、通勤の困難さ、介助が必要であること、居住地に勤務可能企業がない等の理由により一般就労に繋がらない生徒が一定数います。県教育委員会では、こういった生徒の就労機会の拡大を図るため、令和3年度よりICT機器を活用した在宅実習プログラムのモデル研究を開始しました。

在宅実習とは

企業と参加生徒の自宅等をつなぎ、オンラインで行う実習です。データ入力や画像編集等の企業が設定した業務を行います。報告や業務データの送付等、担当者とのやり取りについてもWEB会議システム等を使用して、オンライン上で行います。令和4年度は、県内の企業3社にご協力をいただき、5校で実施した在宅実習の取り組みを紹介します。

登録番号38

鍋屋バイテック会社

代表取締役社長 岡本 友二郎
関市桃紅大地1番地

在宅実習プログラムへ協力いただいたきっかけや理由

・当社は、障がい者雇用に力を入れておりますが、身体障がいのある方については、トイレ・階段などの設備面で環境が整わない等の理由により受け入れが難しいケースがあり、雇用実績が少ない状況です。その一方で、コロナ禍で在宅勤務を行う体制も整ってきたことから、企業として在宅実習プログラムの趣旨に賛同し、本プログラムの実習受け入れを決めました。

在宅実習プログラムを行って会社としてよかったこと

- ・障がい名によってイメージする様相と実際に受け入れた実習生の間には、良い意味でギャップがあり、障がい名にとらわれず個々の実態について知るこの重要性を感じました。
- ・WEBでの実習であるため、成果物の提出という明確なゴールがあり、実習生が意欲的に参加する様子が見られました。そのため、企業側としても評価しやすかったです。実習生徒2名については、分からないことは、積極的に質問するなど、意欲的に取り組んでいました。
- ・環境が整えば、在宅でも十分働く力のある生徒がいるということが分かりました。

在宅実習プログラム検討企業への助言等

・業務の切り出しの部分は難しさもありますが、在宅でもできることを明確にすることで、こういった形の実習の受け入れが可能です。また業務内容等については、教育委員会や学校とも連携しながら検討していくこともできます。



実習参加生徒の声

羽島特別支援学校 2年 池戸 大修

在宅実習を受けたいと思った理由は(きっかけ)

・卒業後は、パソコンを使った仕事をしたいと考えていることと、最近はリモートワークが増えてきていることから、遠隔でのやり取りの経験を積んでおきたいと考え、自宅や学校で実習を受けることができる在宅実習プログラムへの参加を希望しました。

在宅実習を行っての感想

- ・作業内容(作図等)はとても難しかったです、担当の方が丁寧に説明してくださり、諦めずに最後まで進めることができて良かったです。作図の際には、ズレ等がないように位置をしっかりと合わせて正確に作成することが大切だと分かりました。
- ・この実習を通して、パソコン操作に自信がもてるようになりました。また、オンラインで働く場合でも、通常の仕事と同じようにコミュニケーションの力が大切だということがよく分かりました。
- ・今回の実習をきっかけに、今後はパソコンのスキルを一層高めたいと思いました。

